



## 9月1日 登山道保全関係者フィールドワーク報告

## 報告者

奥岳集合9時、当会からは 会長、 さん、 の3名。くろがね小屋管理用の軽トラもあるので、荷物などは載せて運んで貰える。

最初の作業は土嚢作り、烏川橋の少し先。この山側には排水溝があり、土砂が詰まっています。土嚢作りには最適、土嚢の端は結ばずただ折っておくだけだ。車で現場まで運んで貰った。

ここの先で、馬車道から最初に近道が別れる、ここで、講師の「飯豊朝日を愛する会」の人が、「こう言うのが登山道の理想なんだ、何の手入れもなくて良い、こういう道にしたいんだ」という。

1メートル幅くらいのカラマツのある登り坂で、道には縦横に2列にカラマツの根が露出していて、うまく土を留めている。カラマツの根が上手に階段造っているようで、根っ子の間に入っている土は流れず、挟れていない。

更に登って、整備箇所の上で、笹を切り始めた、3メートルほどの笹を10本ほど切り出し、3箇所を留めて、そういう束を5~6束作った。この笹の束は挟れ箇所の下に、根本を上にして、置いておく。

挟れ箇所の上端から少し下に杭を打ち込む。ここが最下段、後は上に向かって、斜めに杭を繋いで設置する。上端はかすがいで次の杭に固定される。

作業順序。最初に、底に笹束を根側を上にして置く、隙間があるので水抜きになる。次に杭を斜めに繋いで置く、杭を置く事で、登る足かがりになるし、斜めなので、水を溜める「ダム」にならず、土砂を流さず留められるので、挟れの回復に役立つ。斜めの木の下には、木材の端材や石を投げ込み、挟れ箇所の埋め込みに使っている。斜めの木があるので、端材や石投げ込んでも 偏らず平均になる。

笹束があるので、落ちた雨も地面を挟らず、下流に流れるだけとなる。笹束は腐りにくいので長持ちするので排水用には最適なのだ、笹束だけでは人が歩くと地面に埋め込まれてしまって、排水の役に立たない。石と廃材と斜めの木材で、うまく排水できる仕組みが出来たのだ。最後の仕上げには木材にチェーンソーで「滑り止めの溝」入れた。

このように整備された場所、今後の天候や季節の変化でどのように変わっていくか、よく見ておきたい。



整備前のえぐれた箇所



笹の束を用意



一番下に敷く



丸太はカスガイで止める



木枠の下には笹の束



笹束の上には丸太



笹束の上には丸太や土嚢を積む



当日、集合時間の9時前後、奥岳駐車場の北西側、くろがね小屋駐車場所近くで「サル」が目撃された。すぐ森に戻ってしまったようだが、奥岳での「サル」目撃は珍しい(椎原会長談)。



9月7日

## 僧悟台登山道整備

## 報告者

塩沢登山口7時半集合に遅れた私。草刈機を担いだ 会長、 さん、 さんと、大きなハサミを手にした さんが待っていてくれた。

スキー場には簡易トイレ設置あり。その日はトレラン大会の日で、トイレはそのための臨時設置。850人もの方が参加していたとのこと。11時にすれ違った選手を先頭に次々と走り降りてくる選手達を声援。その声援以上に「(整備)ありがとうございます」「お疲れ様です」のお声かけをいただき、感激しながらの整備活動となる。

さて、急登の僧悟台を登り終えると両脇から笹が迫り出している道、迫り出すどころか笹に覆われて道さえわからなくなっているところがある。さんと手でカチャカチャ切ってはいたものの、道を覆い尽くす大量の笹は機械に任せることに。

また、掘れてしまってる箇所には広葉樹の枝葉を埋めると。土の流出を止めると同時に流れてきた土をとどまらせることを願いながらの作業。



お昼近くになり、休憩所を過ぎ会長、 さん、 さんと合流。大きく崩れた道の補修(バイパス作り)をしていた3人の手伝いに入る。笹や木の根を切断する作業、大きく掘ってしまった道に笹の束を寝かせ暗渠にする作業などを行う。

「この作業は前菜。次がメイン」という会長の言葉に、食べたおにぎりが胸に詰まりそうになる。そうそう、メインはあの道なき道になりつつあった道の笹刈り。



大量の笹も太めの枝も一網打尽にカットする機械の性能と腕に驚愕しつつ、大量の笹にうんざり。これが高価な山菜だったらなどと妄想しながら、脚でローラーのように纏めて道の傍に寄せる。

用事のあった私は4時で現場を切り上げさせていただいた。他の皆様はその後も作業を続け、下山が6時とのことだった。頭が下がる。

笹が生い茂り、樹木が枝を伸ばして道なき道にしてしまうのは自然の修復力のなせる技ではあるが、もう少しお手柔らかに願いたいところである。

## 事務局コラム

久保五三さん、福島民報社長賞



9月4日から8日まで、福島市のアオウゼで開催された、  
県シルバー美術展・洋画部門で さんの「春の雪」が、福島民報社長賞を受賞した。  
なお、久保さんは2014(平成26)年に、福島県美術大賞を受賞されている(会報312号)。  
※絵の掲載に関しては、ご本人の了承を得ています。

## 9月の登山教室から

登山の道具  
ツェルト、マット、寝袋

ツェルト設営は熟練の技故、簡単そうに見えたが、自然の中で、しかも雨、風、雪などの天候のもとでは?と考えると鍛錬が必要と思う。

ずっと気になっていたマットの種類だが、エアマット、フォームシートなどそれぞれの使い勝手を聞いただけでなく寝心地を体験することができ大変役立った。